

「明治12年のコレラ流行」に関する本

『栃木の流行り病 伝染病 感染症』 ★講師編著作

(大嶽浩良／編 下野新聞社 2021年)【K490/オ/21】

天然痘、コレラ、麻疹など、郷土の先人たちは、細菌・ウイルスといかに闘ってきたのか。歴史研究者と医師による栃木県初の「感染症史」。新型コロナウイルスにも言及。

『とちぎメディカルヒストリー』

(酒井シツ／監修指導 獨協出版会 2013年)【K490/サ】

幕末明治の栃木県は医療の先進地だった…。読みやすくするための栃木県初の医療史。P266～287「栃木県のコレラ騒動」(大嶽 浩良／著) ★講師著作

『宗教・民衆・伝統』 (地方史研究協議会／編 雄山閣出版 1995年)【K160/チ】

P247～269「栃木県におけるコレラ騒動」(大嶽 浩良／著) ★講師著作

『幕末・明治・大正期の医療』

(塩谷郡市医師会史編纂委員会／編 塩谷郡市医師会 2016年)【K490/シ/16】

第一部「醫の歴史」第二章「感染症の歴史」天然痘、宇都宮の種痘、コレラ、五味淵伊次郎が経験したスペインかぜ、結核等

『宇都宮市史 第八巻』

(宇都宮市史編さん委員会／編 宇都宮市 1981年)【K210/ウ/8】

第一節「流行性伝染病」一「市民と伝染病」コレラと天然痘の恐怖

二「伝染病の流行」明治期の概観

『壬生町史 資料編 近現代 II』●

(壬生町史編さん委員会／著 壬生町 1987年)【K244/ミ/4】

第九章「衛生問題」五 コレラ予防の心得書(明治12年)

『感染症と日本人』 (長野 浩典／著 弦書房 2020年)【493.8/ナ/20】

過去と現在の感染症の流行が、社会や人間の行動にどのように影響を与えたかをみる1冊。第三章「明治十二年のコレラ大流行」掲載。

『感染症と民衆』 (奥 武則／著 平凡社 2020年)【498.6/オ/20】

幕末から明治中期にかけて間欠的に大流行し、その高い致死率が民衆に脅威を与えたコレラ。政府は、民衆は、いかにコレラと対峙したかを説く。

『安政コロリ流行記』

(仮名垣 魯文／原著 門脇 大／翻刻・現代語訳 白澤社 2021年)【210.5/カ/21】
感染症に襲われ多くの死者を出した大都市江戸の、混乱と不安を虚実とりまぜて活写した『安政箇労痢流行記』。原文と現代語訳のほか感染症にまつわる流言などの記録を解説。

『江戸のコレラ騒動』 (高橋 敏／著 KADOKAWA 2020年)【210.5/タ/20】

黒船来航直後、幕末の江戸を大地震が襲った。安政5年、これにコレラが追い打ちをかける。時の人々がどのようにコレラと闘ったか、おかしくもたくましい庶民の姿を描く。

『江戸幕府の感染症対策』 (安藤 優一郎／著 集英社 2020年)【498.6/ア/20】

天然痘やコレラといった感染症に苦しめられた江戸時代。「過密都市」江戸は被害を受けやすかったが、都市崩壊には至らなかった。「江戸の危機管理術」を解き明かす。

『病が語る日本史』 (酒井シツ／著 講談社 2002年)【490.2/サ】

病を通して日本史を見つめなおした書。

第2部「時代を映す病」に「コレラの恐怖」掲載。

『コレラの世界史』 (見市 雅俊／著 晶文社 2020年)【493.8/ミ/20】

インドの風土病だったコレラの襲来は、新しい都市づくりを模索する19世紀のヨーロッパに何をもたらしたか？人間中心の歴史観を排し、細菌の側から歴史をみつめなおす。

『感染症の歴史』(リチャード・ガンダーマン／著 野口 正雄／訳 原書房 2021年)【493.8/ガ/21】

伝染病の世界的流行がどのように始まり、拡大し、社会がどのように対処してきたかを写真と地図で解説。

『図解感染症の世界史』 (石 弘之／著 KADOKAWA 2021年)【493.8/イ/21】

人類と微生物の格闘、共生を30億年の地球環境史から読み解いた『感染症の世界史』図解版。感染症にまつわるさまざまな話題を紹介。新型コロナウイルスの知見も満載。

『感染症はぼくらの社会をいかに変えてきたのか』

(小田中 直樹／著 日経BP 2020年)【493.8/オ/20】

ペスト、天然痘、コレラ、インフルエンザなど、過去に感染爆発を起こした代表的な感染症について概説。

●は、館内閲覧のみの資料です。
この他にも資料がありますので、図書館職員にお気軽にご相談ください。

宇都宮市立中央図書館
〒320-0845 宇都宮市明保野町7番57号
TEL : 028-636-0231 FAX : 028-639-0740
9:30~19:00 (金曜休館) (令和3年12月作成)
